

在郷町 マップ 今昔編



茨木市

編集・発行：茨木市 都市整備部 都市政策課 令和 5年 3月
〒567-8505 大阪府茨木市駅前三丁目 8 番 13 号 TEL 072-620-1660

在郷町とは

在郷町（ざいごうち）とは、一般に、農村部で発達した商工業集落をさします。茨木市には、JR京都線、高瀬川、阪急京都線、元茨木川緑地に囲まれた場所に在郷町があります。

在郷町は、中世に茨木城の城下町として始まり、江戸時代初期に廃城となってからは、「街道」を中心に酒造業などの商工業で栄える集落になりました。

それから 400 年以上経った今でも、在郷町は商店街を中心として多くの方に親しまれており、まちなかを見渡すと中世からの痕跡や在郷町の発展の軌跡が残っています。



在郷町の位置→

在郷町マップについて

在郷町マップは、在郷町の魅力を市内の方々に知っていただくことを目的として発行しています。

第一弾では「歴史編」として、在郷町に今も残っている歴史的な要素をご紹介します。

第二弾となる「今昔編」では、昭和中期から後期の在郷町の貴重な写真やマップを手掛かりに、今と昔のまちの変化や良さを感じていただける内容となっています。

ぜひご覧いただき、在郷町の魅力を「再発見」してください。



在郷町マップ
(歴史編)→



北部



昭和 44 年頃の川本本店。当時は建物の正面がタイルなどで装飾された「看板建築」の様相であった。



丸また
昭和 44 年頃の国鉄の高架をくぐるトンネル（通称：丸また）
明治 9 年の東海道本線開通と同時に造られ、現在も生活道路として残っている。レンガが斜めに積まれているのが特徴。



昭和 44 年頃の上泉町の様子。この周辺にはかつて酒蔵が並んでおり、現在も蔵が残っている様子が伺える。

マップを片手に歩いてみよう！

昭和 33 年の地図を見ながら、なつかしい在郷町へとタイムスリップしてみませんか？
在郷町の今と昔を見比べながら、歴史の移り変わりやまちの趣（おもむき）を感じてみてください。

在郷町全体 MAP



- 注目ポイント**
- 町家**
「川本本店」「omo cafe +c」など、在郷町を代表する町家です。
- 丸また**
明治時代に造られたトンネル。レンガをねじりながら積み上げているのが特徴です。
- お地蔵さま**
在郷町の未来を見守るお地蔵さまは、ほとんどがお顔が白く塗られ、「化粧地蔵」と呼ばれています。

- 地図の範囲
- 凡 在郷町境界
- 例 おすすめルート
- 注目ポイント

中央部



茨木高校

枝切街道

いざ、在郷町の
时空の旅へ！
寄り道しながら、
僕たちにも
会いに来てね。



昭和45年頃の中央通り。
低層の建物が通り沿いに並び、茨木別院
の存在感を一層引き立てている。



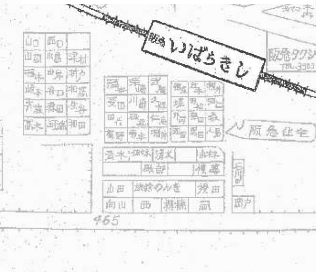
昭和33年頃の中央通りでの祭りの様子。
当時の子どもたちはこども神輿を担いで
辺りを練り歩き、祭りを盛り上げていた。



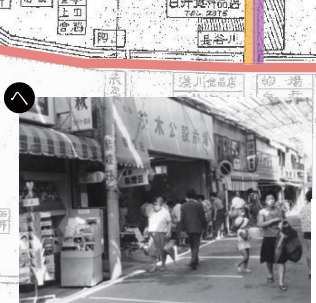
昔の心斎橋商店街入口(年代不詳)。
茨木で一番古いと言われている商店街は、看板を変えながら、今も
在郷町を見守っている。



昭和43年頃の元町(茨木神社方向)。
現在も町家が残っており、昔の雰囲気を感じることができる。



昔の本町通りでのお祭りの様子(年代不詳)。
通りにはアーケードが架かっており、お祭り際には提灯行列などが通った。



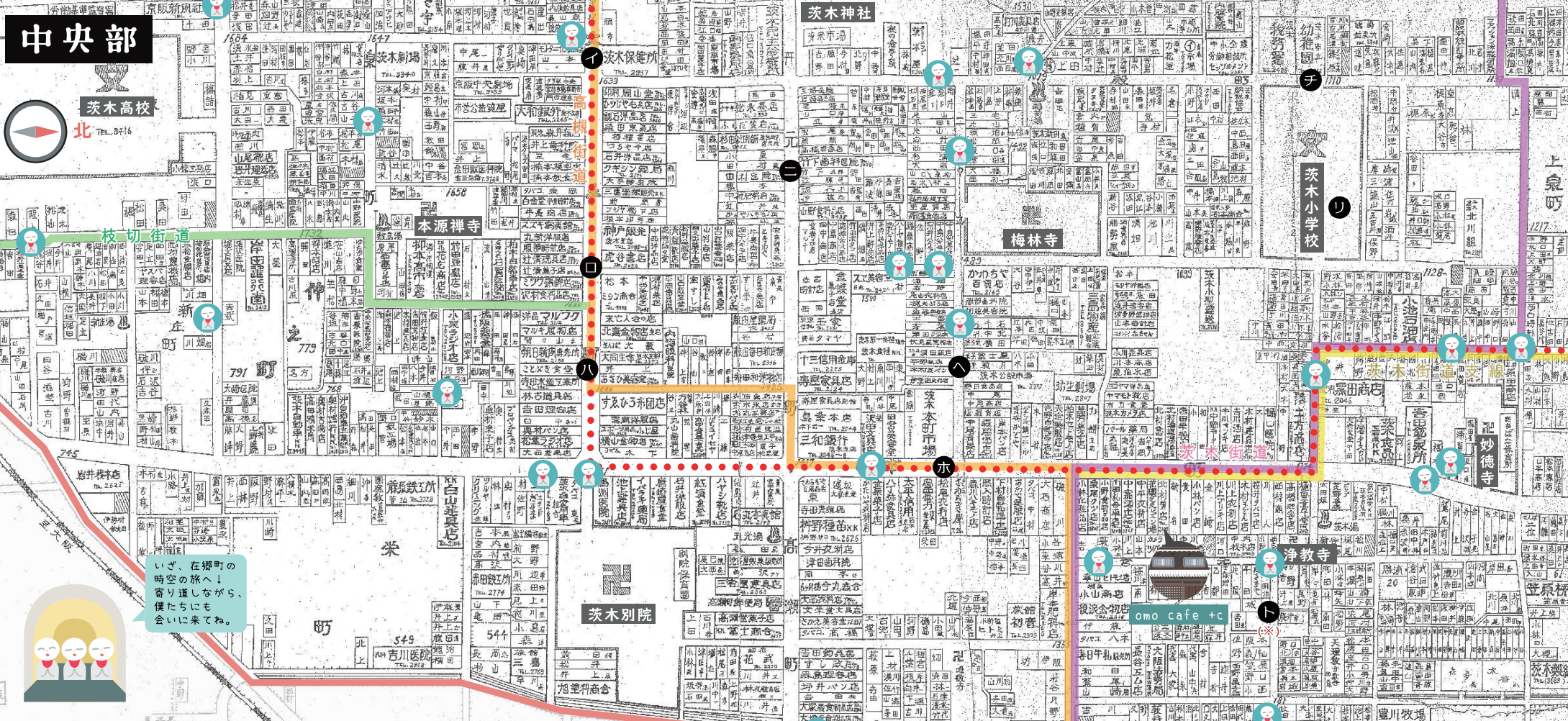
昭和38年頃の宮元町付近(場所不詳※)。
茅葺きや平屋の建物の住宅地があった。



昭和31年頃の茨木幼稚園付近。
右上に見える水道タンクの小さな屋根は、茨木のシンボルだった。



昭和42年頃の茨木小学校。
現在の校門は、平成5年に茨木小学校創立120周年を記念して復元された茨木城の「櫓門」が使用されている。



1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12 13 14 15 16 17 18 19 20 21 22 23 24 25 26 27 28 29 30 31 32 33 34 35 36 37 38 39 40 41 42 43 44 45 46 47 48 49 50 51 52 53 54 55 56 57 58 59 60 61 62 63 64 65 66 67 68 69 70 71 72 73 74 75 76 77 78 79 80 81 82 83 84 85 86 87 88 89 90 91 92 93 94 95 96 97 98 99 100